

令和4年度 伊豆地域公共交通活性化協議会 事業実績

1 概要

令和4年度事業については、次のとおり実施した。

2 事業内容

(単位：円)

区 分	事業費	内 容
伊豆地域公共交通 計画策定	3,037,880	東伊豆・中伊豆地域の公共交通利用状況の整理
〃	911,000	伊豆地域公共交通計画に用いる図表の作成
〃	454,520	交通系 I Cカードの活用可能性に係る講習
〃	4,488,000	南伊豆・西伊豆地域の交通系 I Cカードのデータ抽出
交通結節点	1,529,370	サイネージの維持に要する経費
〃	0	観光・交通情報提供の自動化の取組
計	10,420,770	予算額：10,568 千円

令和 4 年度の事業報告について

令和 5 年 3 月

令和 4 年度事業の概要

2

事業内容

(単位 : 円)

区 分	実績額 (予算額)	実施	備考
伊豆地域公共交通計画策定	3,037,880	東伊豆・中伊豆地域の公共交通利用状況の整理	計画(案)で使用
〃	911,000	伊豆地域公共交通計画に用いる図表の作成	同 上
〃	454,520	交通系 IC カードの活用可能性に係る講習	詳細は3,4
〃	4,488,000	南伊豆・西伊豆地域の交通系 IC カードのデータ抽出	詳細は5,6
交通結節点	1,529,370	サイネージの維持に要する経費	特記事項なし
〃	0	観光・交通情報提供の自動化の取組	詳細は7,8
計	10,420,770 (10,568,000)		

交通系 ICカードの活用可能性に係る講習

開催日：令和4年10月21日（金）
 会場：オンライン（伊豆箱根鉄道（株）本社から配信）
 内容：乗降ログデータ（ICカード含む）の活用
 ICカードの活用で得られるログデータの特徴
 乗降ログデータ活用例の紹介 など

データを整理する意義

路線やダイヤの改善を考える際、「感覚的にこうだろう」という現場の暗黙知は大体合っている
 しかし、それでは（多くの場合）意思決定できない
 意思決定をするためには、その判断材料が必要
 感覚が正しいかどうかを検証し、意思決定を下すためには数値を示すことが有用

利用実績データ



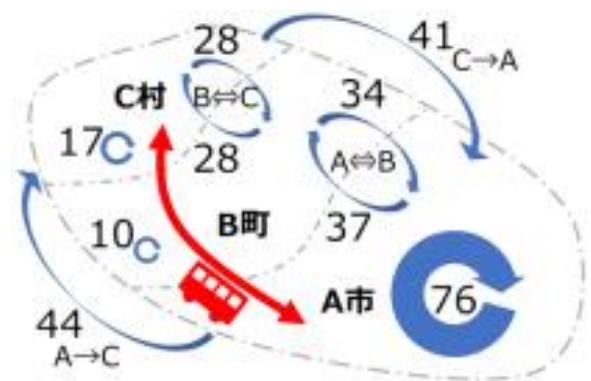
交通系 ICカードの活用可能性に係る講習

OD表の概要

		D：降車停留所									
		01	02	03	04	05	06	07	08	09	計
O：乗車停留所	01_名古屋駅		1	2	25	4	6	5	8	6	57
	02_伏見町	1		2	4	1	2	3	10	1	24
	03_栄町	3	1		3	2	1	6	2	20	
	04_新栄高校	26	5	3		4	8	3	56		
	05_千種町	3	2	1	5		2	2	6	1	22
	06_池下町	5	1	2	3	2		1	10	3	27
	07_今池町	4	1	4	1	2		6	2	23	
	08_覚王山SC	9	8	7	9	7		9	9	65	
	09_本山温泉	4	1	1	2	1	3	1	8	21	
	計	55	23	19	54	22	29	24	62	27	315

OD表の解釈の工夫

		D：降車停留所			
		A市内	B町内	C村内	計
O：乗車停留所	A市内	01_名古屋駅			
	02_伏見町	76	37	44	157
	03_栄町				
	04_新栄高校				
	B町内	05_千種町			
	06_池下町	34	10	28	72
	07_今池町				
	C村内	08_覚王山SC			
	09_本山温泉	41	28	17	86
計		151	75	89	315



R 4 観光・交通情報提供自動化の取組

実証実験 (ふじのくにデジタル化推進事業)

タッチパネル型サイネージ端末による観光・交通情報提供

実施時期：令和4年7月20日から令和5年2月28日

設置箇所：伊豆急行線伊豆高原駅

遠隔通話：伊東市観光案内所 (伊東駅構内) にて対応

事業内容：交通結節点に設置したDX機器により、公共交通利用の円滑化、利便性観光地PR・交通情報の提供による地域振興等を目指す。

利用イメージ



ホーム画面



解決したい地域課題

- ・閉鎖した窓口に対する代替手段
- ・非対面案内
- ・無人駅での問い合わせ対応、問い合わせ業務の省力化
- ・旅行 (移動) ニーズの見える化

R 4 観光・交通情報提供自動化の取組

R3実績 (3カ所、約5ヶ月間)

R3	利用者	利用件数	英語操作割合	遠隔通話数	会話破綻率
熱海	880	3,808	1.1%	40	49.3%
伊豆高原	884	4,325	3.2%	13	43.6%
三島	339	1,441	3.6%	4	39.0%
合計	2,103	9,574	2.4%	57	44.6%

R3実施における課題

- 会話の半数が破綻 (会話破綻率45%)
- 夏期データ未取得
- モデルコース提案など編集不可

R4暫定実績 (約6ヶ月経過時点)

R4中間	利用者	利用件数	英語操作割合	遠隔通話数	会話破綻率
伊豆高原	1,312	5,222	6.5%	62	30.7%

R4実施における改善点

- 会話シナリオ2ヶ月経過毎に計3回改修
- 会話破綻率減少
- 伊豆高原エリアからを前提とした観光モデルコース設定
- QRクーポン機能追加
- 県観光情報PF連携

会話破綻率はシナリオ改修2回目実施後

今後の課題等

- ・端末維持費用の低廉化
- ・サイネージ端末ならではの優位性強化
- ・スマホとの連携強化
- ・県観光デジタル情報PFへ自動格納した旅行ニーズデータの分析・活用